

※グループの場合は、筆頭者(リーダー)の氏名、所属、当該企業もしくは学校区分及び所在地を記載して下さい。

ユースケース	⑦つの該当するユースケースに☑を入れて下さい。 <input checked="" type="checkbox"/> ①生産現場における課題を解決するためのツール <input checked="" type="checkbox"/> ②工場や企業の外と情報をやり取りする際の課題を解決するためのツール <input checked="" type="checkbox"/> ③事務における課題解決ツール <input type="checkbox"/> ④グローバル化にともない海外で展開する為に役立つツール <input checked="" type="checkbox"/> ⑤自社製品をIoT化するためのツール <input checked="" type="checkbox"/> ⑥データの活用全般に関わるツール <input checked="" type="checkbox"/> ⑦人材育成の観点で活用できるツール			
	ツール名	プログレス・ビュー		
候補者	イバラキヤスト 茨木康雄	他 名	企業名/学校名 団体名/個人名	カブシキガイシャ インテレクツ 株式会社 インテレクツ
	企業区分		所在地	東京都
<input type="checkbox"/> 大企業 <input checked="" type="checkbox"/> 中小企業 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> その他 ( )	開発費用	<input type="checkbox"/> 分からない <input checked="" type="checkbox"/> 10,000,000円		

## ツールのPRポイント

## ◎ツールの概要(どんなお悩みを解決できるものか) ※200字以内

問題点:①新築需要の減少、②リフォーム物件の増加により仕事の小口化・細分化、③トラック運転手不足、④現場職人不足、⑤サプライチェーンの需要予測が難しい、⑥工場の多品種少量生産、競争による採算悪化、⑦リアルタイム情報を複数社で共有するツールが無い、⑧確認や連絡等が煩雑業務等の問題を解決するツール

## ◎導入容易性やコストパフォーマンス ※500字以内 (いくらで導入できるか、どれぐらいのどういった効果が期待できるか)

導入の容易性: 現場の見える化によるディマンドチェーンマネジメントシステム(DCM)の開発が主となります。よってDCMの開発とSCMとの融合を合わせて1000万円と予測しています。

両システムの導入先は数多くの資材を供給する企業が最も効果的と考えます。このシステムで恩恵を受ける利用企業からは物件単位の使用料を取る事で、運用の負担は軽くなります。

又、このDCMのデータをSCMIに利用できる事も資材会社には大きなメリットです。

このシステムを利用する中小の施工店、大工さんでもスマホがあれば閲覧で、新たなハードの投資は不要です。

## ◎導入波及性や有効性、安全性 ※500字以内 (横展開の可能性や、セキュリティへの考慮等)

導入波及性・有効性: 住宅に関わる資材の事業ではIT化が遅れており、国内新築需要が減少の為に新たな投資意欲は無く、効率的な事業が難しくなっています。政府の推奨するDCMとSCMを融合した当システムは資材・加工会社に改革を促進するでしょう。

最終的に物も人も工事現場に集約されます。当システムによって関連する複数の企業に現場写真を公開し、進捗状況を可視化し、工程管理に載ります。関連企業はリアルタイムの工程管理を利用し、準備・加工予定、納材予定、職人の配置を決め、各社の予定を記入することで、複数の会社が一つの物件で繋がり、情報を活用して各社は最適化を自主的に進められて収益が改善します。

現場に関わる全ての企業はネットワークに接続する費用を物件単位の少額設定にする事が可能であり、システムを運用する企業は多数の物件を管理する事でシステムの開発と運用費用は賄えます。

## ◎使用方法 取扱説明書 ※500字以内

システムの運営会社が資材会社の場合

① 物件ごとの関わる企業、物件の概要、住所、図面、工程管理表、写真フォルダーを登録 関係企業だけがネットから閲覧可能。

② 写メールを各監督者、運送会社運転手がシステムに送信すると自動的に映像を現場毎に、時間付きで工程表でネット公開

③ 関連各社はIDとパスワードで物件の工程管理表をスマホ等から閲覧、自らの工程、スケジュールを公開

④ 加工会社、資材会社、運搬会社、施工店は現場の進捗状況に合わせた最適な工程を組む

⑤ ビルダーは現場の可視化は関わる企業が効率的に仕事を進むことでコストダウン、工期を早めることが可能になり、キャッシュフローが改善します。ビルダーは施主にリアルタイムの現場情報提供できます。

⑥ 物流企業は配送拠点から高回転でトラックを配車出来ます。施工店は納入予定日と納材完了をネットから確認でき、双方の連絡業務を無くします。

⑦ 資材会社はビルダーの受注状況、工程情報によって最適な在庫を準備出来ます。安定的な資材の供給、資金や保管料の節約になります。

記載事項チェック欄

印刷時に枠内に文字が収まっているか。

◎自由記述 ※1500字以内 導入事例・実績、導入支援体制(有れば)等記載、その他概要図、写真の貼付も可 ※4点

今後新築住宅需要は減少し、中古住宅の利用や修繕を含めたリフォーム需要は増加すると予測されています。よって総ボリュームは減少しますが、仕事の小口化が進みます。又、大工等の現場作業員、トラックドライバー、工場の従業員が減少する事も予測されています。

これらはコストアップの要因となる一方、仕事の取り合いとなり、資金の無い、適切な改革が取れない中小企業の淘汰が進む恐れがあります。

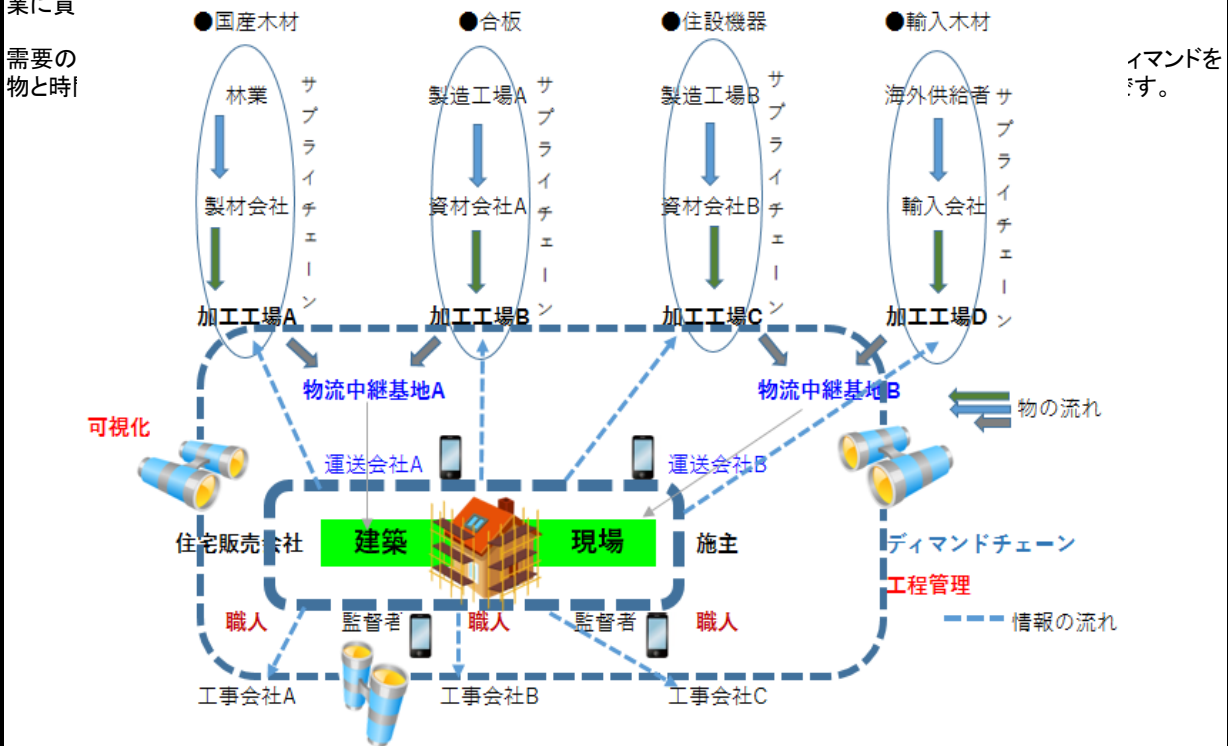
一方、大手の住宅会社は大工等の減少には工場での生産を増やす、合理化、パネル化、工場の機械化が進むでしょう。プレファブ化が進むと言う事は大手企業には可能ですが中小企業は不可能です。 どのような企業にも少ない投資で効率的なシステムが不可欠となります。

資材も職人もすべて現場に集まります。 リアルタイムに近い現場の進捗状況と工程管理をネットから配信するシステムは一企業での取り組みではなく、企業の垣根を超えて全企業で一物件の工事と資材の加工と物流の最適化を進める事が出来ます。 国産材の供給に於いても、ビルダーに供給資材としてシステム内で重視させるだけではなく、林業関係にSCMの需要情報をもたらします。

建築現場の見える化システムが幾つかありますが、工務店支援に留まります。 当システムは建築現場に関わる全ての企業の物流・加工・素材の仕入れ・職人等幅広い企業、業種に最適化を促進します。一般的な工務店のサプライチェーンについては、一次問屋、二次問屋、建材販売店等、複数の流通事業者を介した、旧来の重層構造が残っており、更に熟練の人材不足でトータルで住宅資材事業、建築工事業、物流事業を効率的に行う事が困難になります。

資材業界では良いITシステムが無いままに熟年層がリタイヤし、ノウハウの継承が難しくなっています。 当システムの利用により、データ管理も進み、情報の一元化と共有によって新たな人材でも運用が出来ます。

需要も人口も減る中で、中小企業は如何に効率的な仕事を行えるかが求められています。 IoTが容易く運用でき、スマホを用いてリアルタイム情報を皆で共有し、人に常に最適の判断が出来る情報を何処に居ても提供出来るツールで、現場を起点にしたリアルタイム情報をそのツールに載せられれば、物流、工場、資材、木材でしたら林業等の複数の分野の企業に貢献出来ます。



記載事項チェック欄

- 印刷時に枠内に文字が収まっているか。
- 図など貼付の際、文字などが潰れていないか。

■第1回 中堅・中小製造業者向けIoTツール募集イベント 書類  
(様式4)「追加情報」

ツール名 ※40文字以内

プログレス・ビュー

ひとことPRコメント(15文字以内)

現場が見えれば最適化出来る！

参考Webページ(URL)

(様式5)「問合せ先情報」

問合せ先情報

企業名 組織名	株式会社 インテレクツ
住所	〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-10-530
電話番号	050-3754-2776
メール	<a href="mailto:ibaraki@intellecs.jp">ibaraki@intellecs.jp</a>
ホームページ	
担当者名	茨木康雄 (いばらきやすお)